英文解釈 L01 第 9 講 主節と副詞節の関係を読む

学習目標

- 副詞節の始まりと終わりを見つけ、主節と副詞節それぞれの主語・述語動詞を区別できる。
- 主節の内容に時・理由・条件・譲歩の情報がどう結び付くかを判断できる。
- 副詞節の位置に惑わされず、主節との意味関係を保って自然な日本語に訳せる。

共通凡例：S＝主語、V＝述語動詞、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾部。main は主節の骨格と副詞節全体、inner は副詞節の内部を示す。〈〉＝名詞、〔〕＝形容詞、( )＝副詞として働くまとまり。V は下線で示す。主節は構造上の中心であり、意味上の重要性が常に高いわけではない。relation は実際の修飾関係を示し、節間の時・理由の関係とは区別する。

副詞節を区切り主節に戻る

副詞節を区切り主節に戻る

英文に主語と述語動詞の組が 2 つ現れたとき、どちらが文全体の中心なのかを見失うことがある。特に、接続詞で始まる副詞節が加わると、英文を左から順番に訳すだけでは、2 つの内容の関係を正しく捉えにくい。

主節は文の中心となる内容を述べる部分であり、**副詞節**は、その内容に「いつ」「なぜ」「どんな条件で」「それにもかかわらず」などの情報を加える部分である。この講で扱う副詞節は、接続詞と、その後に続く主語・述語動詞を含むまとまりとして捉える。

まず、副詞節が文頭にある英文を読んでみよう。

英文①

語注：several「いくつかの」

(When the students arrived at the library after school) , 〈the teacher〉 showed them 〈several books 〔about animals〕〉.
M S V O O

M “When the students arrived at the library after school” / 副詞節（時） / When から school まで。主節の出来事が起きた時を示す。
S “the teacher” / 主節 S
V “showed” / 主節 V
O “them” / 見せる相手
O “several books about animals” / 見せたもの

(When 〈the students〉 arrived (at 〈the library〉) (after school)) , the teacher showed them several books about animals.
S V M M

S “the students” / 副詞節 S
V “arrived” / 副詞節 V
M “at the library” / 到着した場所 → V “arrived”
M “after school” / 放課後 → V “arrived”

©ミライコーチング

意味：放課後、生徒たちが図書館に着いたとき、先生は生徒たちに動物についての本を何冊か見せた。

文頭の When the students arrived … を、そのまま文全体の中心と考えると、「生徒たちが到着した」という出来事を主な内容として読み進めてしまう。

しかし、When は副詞節の始まりを示している。副詞節内の主語（S）は the students、述語動詞（V）は arrived である。副詞節は When から after school まで続き、その直後のコンマで区切られる。

コンマの後の the teacher から主節に戻る。主節の主語（S）は the teacher、述語動詞（V）は showed である。主節が述べるのは「先生が生徒たちに本を見せた」という内容であり、when 節は、それが「いつ」起きたのかを示している。

次は、副詞節が主節の後ろに置かれる英文である。

英文②

語注：dust「ほこり」、playground「校庭」、blew「blow の過去形。この文では風がほこりを吹き散らす」、across「～を横切って／～の一面に」

〈The students〉 stayed (in 〈their classroom〉) (during lunch)
S V M M

(because the strong wind blew dust across the playground).
M

S “The students” / 主節 S
V “stayed” / 主節 V
M “in their classroom” / いた場所 → V “stayed”
M “during lunch” / 昼食の時間 → V “stayed”
M “because the strong wind blew dust across the playground” / 副詞節（理由） / because から playground まで。主節の内容が成り立つ理由を示す。

The students stayed in their classroom during lunch (because 〈the strong wind〉 blew
S V

dust (across 〈the playground〉)).
O M

S “the strong wind” / 副詞節 S
V “blew” / 副詞節 V
O “dust” / 吹き散らされたもの
M “across the playground” / ほこりが広がる範囲 → V “blew”

意味：強い風が校庭にほこりを吹き散らしたので、生徒たちは昼食の時間に教室にいた。

この文では、最初の The students が主節の主語（S）、stayed が述語動詞（V）である。during lunch までで「生徒たちは昼食の時間に教室にいた」という内容が読み取れる。

ただし、そこで文の意味を確定してしまうと、「なぜ教室にいたのか」という情報が抜け落ちる。

because から副詞節が始まり、その内部の主語（S）は the strong wind、述語動詞（V）は blew である。副詞節は文末の playground まで続く。because 節が主節の後ろから理由を加えるため、2 つの内容を「～なので」という関係で結び付ける。

この 2 文から分かるのは、**英文の先頭にある節が必ず主節になるわけではない**ということだ。また、副詞節は主節に従属する構造を持つが、だからといって意味上の重要性が常に低いわけでもない。時や理由を読み落とせば、英文が伝える内容そのものが変わってしまう。

副詞節が前にあっても後ろにあっても、まず接続詞を手がかりにその範囲を区切り、節の内部の主語・述語動詞を確かめる。そのうえで主節に戻り、副詞節が主節の内容にどのような情報を加えているかを考えることが、正確な英文解釈につながる。

副詞節を読むときの着眼点

副詞節は、接続詞だけでなく、その後に続く主語・述語動詞を含めて一まとまりとして読む。

主節と副詞節の境界を確定したら、主節が述べる内容に副詞節の情報を結び付ける。英文中の位置ではなく、2 つの節の構造と意味関係を根拠に訳を組み立てる。

時と理由を主節の内容へ結ぶ

副詞節の範囲を見つけたら、次は主節との意味関係を考える。ここで注意したいのは、2 つの出来事が結び付いていても、その関係が必ずしも同じではないことだ。「いつ起きるのか」を示す場合と、「なぜ起きるのか」を示す場合では、和訳で伝える内容が異なる。

when：主節の出来事が起きる時を示す

英文①

語注：notebook「ノート」、quietly「静かに」

(When the class ends tomorrow)[M], 〈the students〉[S] will[V] quietly[M] put[V] 〈their notebooks〉[O] (on 〈the teacher's desk〉)[M].

M “When the class ends tomorrow” / 副詞節（時） / 明日、授業が終わる時を示す。
S “the students” / 主節 S
V “will” / 主節 V（未来）
M “quietly” / 静かに → V “put”
V “put” / 主節 V（動作）
O “their notebooks” / 置くもの
M “on the teacher's desk” / 置く場所

(When 〈the class〉[S] ends[V] tomorrow[M]), the students will quietly put their notebooks on the teacher's desk.

S “the class” / 副詞節 S
V “ends” / 副詞節 V
M “tomorrow” / 明日 → V “ends” / 未来の時を表す副詞節で現在形を用いている。

意味：明日、授業が終わったとき、生徒たちは自分たちのノートを静かに先生の机の上に置くだろう。

文頭の When から読み始めると、「授業が終わること」が文の中心だと考えやすい。しかし、when が導くのは、主節の出来事がいつ起きるかを示す副詞節である。

まず、When から tomorrow までを一まとまりにする。節内の主語（S）は the class、述語動詞（V）は ends である。直後のコンマで副詞節が終わり、the students から主節へ戻る。

主節の主語（S）は the students、述語動詞（V）は will put である。主節が述べるのは「生徒たちがノートを置くだろう」という未来の出来事だ。quietly は置く動作の様子を表しているため、訳でも「静かに」を落とさない。

ここで when 節が加えるのは、「授業が終わったとき」という時間の情報である。「授業が終わるので、生徒たちはノートを置く」と訳すと、原文に明示されていない理由を加えてしまう。時間的なつながりと、原因・理由の関係を混同してはいけない。

なお、tomorrow があるため、when 節の ends は未来の出来事を表している。未来を表す時の副詞節では現在形を使うという既習事項が当てはまる例だ。when 節が常に現在形になるという意味ではない。

because：主節の内容が成り立つ理由を示す

英文②

語注：lesson「授業」、blow「（風が）吹く」、strongly「強く」

〈The teacher〉(S) did (V) not (M) open (V) 〈the windows〉(O) (during 〈the lesson〉(M)) (because the wind was blowing strongly outside) (M).

S “The teacher” / 主節 S
V “did” / 主節 V（助動詞）
M “not” / 否定 → V “open” / この読みでは窓を開けなかったことを表す。
V “open” / 主節 V（動作）
O “the windows” / 開ける対象
M “during the lesson” / 授業中 → V “open”
M “because the wind was blowing strongly outside” / 副詞節（理由） / この読みでは窓を開けなかった理由。理由自体を否定する読みも文脈によって可能。

The teacher did not open the windows during the lesson (because 〈the wind〉(S) was blowing (V) strongly (M) outside) (M).

S “the wind” / 副詞節 S
V “was blowing” / 副詞節 V（過去進行形）
M “strongly” / 強く → V “was blowing”
M “outside” / 外で → V “was blowing”

意味：授業中、外で風が強く吹いていたので、先生は窓を開けなかった。

この英文では、最初に主節が置かれている。主語（S）は The teacher、述語動詞（V）は否定を含む did not open である。during the lesson まで読むと、「先生は授業中に窓を開けなかった」という内容が分かる。

その後の because で副詞節が始まり、文末の outside まで続く。副詞節内の主語（S）は the wind、述語動詞（V）は was blowing である。strongly は風が吹く様子を表し、was blowing はそのとき風が吹いていたことを示している。

ここで「風が強く吹いていた」という内容だけを中心に読むと、主節の否定を見失いやすい。この解説では、because 節が「先生が窓を開けなかった」という主節の内容について、その理由を説明していると読む。理由を示す内容と、理由によって説明される内容を逆にしないことが大切だ。ただし、not … because は文脈や否定の範囲によって理由自体を否定する読みもあり、否定文で常に同じ関係になるわけではない。

また、「先生は窓を開けたが、風が強かった」と訳すのも誤りである。did not open の否定を保持し、because 節の理由と結び付けて初めて、英文全体の意味を正確に表せる。

when と because は、どちらも副詞節を主節へ結び付けるが、前者は主節の出来事が起きる時、後者は主節の内容が成り立つ理由を示す。接続詞の意味を確認するだけで終わらず、**何が起きるのかを主節から捉え、副詞節がその内容に何を加えるのか**を確かめることで、意味関係を崩さずに訳せる。

時と理由を取り違えない

when 節は、主節の出来事が起きる時を示す。出来事が時間的に結び付いているだけで、原因・理由の関係まで表しているとは限らない。

because 節は、主節の内容が成り立つ理由を示す。主節が否定文なら、何が否定されているかを確かめ、その内容と理由を正しく結び付ける。

副詞節が文頭でも文末でも、節の範囲と内部の主語・述語動詞を確認し、主節の内容へ戻ってから意味関係を訳に反映する。

条件と譲歩を保って読む

副詞節は、主節の出来事が起きる時や理由だけでなく、条件や譲歩も表す。ここで重要なのは、2 つの内容がどのような関係で結び付いているかを正確に捉えることだ。特に、条件をすでに成立した事実として読んだり、譲歩を理由に置き換えたりすると、英文が伝える意味が変わってしまう。

if：ある条件のもとで主節の内容を述べる

語注：classmate「クラスメート」、may「〜かもしれない」（この文では可能性を表す）

英文①

(If the rain stops before noon) , we may play soccer (in 〈the park〉)
M S V V O M

(with 〈our classmates〉) (after lunch) .
M M

M “If the rain stops before noon” / 副詞節（条件） / 正午より前に雨がやむ場合を示す。条件の成立は断定しない。
S “we” / 主節 S
V “may” / 主節 V（可能性） / サッカーをする可能性を表し、実行を保証しない。
V “play” / 主節 V（動作）
O “soccer” / するスポーツ
M “in the park” / 場所 → V “play”
M “with our classmates” / 一緒に行う相手 → V “play”
M “after lunch” / 昼食後 → V “play”

(If 〈the rain〉 stops (before noon)), we may play soccer in the park with our classmates after lunch.
S V M

S “the rain” / 副詞節 S
V “stops” / 副詞節 V / 未来の条件を表す副詞節で現在形を用いている。
M “before noon” / 正午より前 → V “stops” / 正午そのものは含まない。

意味：正午より前に雨がやめば、私たちは昼食後にクラスメートと公園でサッカーをするかもしれない。

文頭の If から読むと、「雨がやむ」という出来事が述べられている。しかし、これを「雨がやんだ」という成立済みの事実として読むのは誤りだ。if は、主節の内容を考えるための条件を示している。

まず、If から before noon までを副詞節として区切る。節内の主語（S）は the rain、述語動詞（V）は stops である。直後のコンマで副詞節が終わり、we から主節に戻る。

主節の主語（S）は we、述語動詞（V）は may play である。主節が述べるのは「私たちはサッカーをするかもしれない」という可能性だ。if 節は、その可能性を考える条件として「正午より前に雨がやめば」という内容を加えている。

ここで、「雨がやんだので、私たちはサッカーをした」と訳すと、雨がやんだことも、サッカーをしたことも事実として確定させてしまう。また、「雨がやめば必ずサッカーをする」と訳すと、may が表す可能性を確実な結果に変えてしまう。

原文が述べているのは、雨がやむという条件のもとで、サッカーをする可能性があるということだ。雨がやむことが唯一の条件だとも、雨がやまなければ絶対にサッカーをしないとも述べていない。

なお、if 節の stops は現在形だが、before noon と主節の内容から、これから雨がやむ場合を考えていると分かる。未来の内容を表す条件の副詞節では現在形を使うという既習事項が当てはまる例であり、すべての if 節に現在形を使うという規則ではない。

although：予想に反する主節の内容を示す

語注：go for a walk「散歩に出かける」、along「〜に沿って」、train ride「電車での移動」

英文②

Mika went (for 〈a walk〉) (along 〈the river〉)
S V M M

(although she was still tired after a long train ride).
M

S “Mika” / 主節 S
V “went” / 主節 V
M “for a walk” / 散歩 → V “went” / went for a walk で「散歩に出かけた」。
M “along the river” / 川沿い / 散歩の経路を示す。
M “although she was still tired after a long train ride” / 副詞節（譲歩） / 疲れていた状況と、散歩に出かけた事実との対照を示す。理由を表す節ではない。

Mika went for a walk along the river (although she (S) was (V) 〔still (M) tired (C)〕 (after 〈a long train ride〉 (M))).

S “she” / 副詞節 S / she は Mika を指す。
V “was” / 副詞節 V
M “still” / まだ → C “tired”
C “tired” / 主語の状態
M “after a long train ride” / 長い電車移動の後 → V “was” / 疲れていた時の状況を示す。

意味：長い電車の移動のあとでまだ疲れていたが、ミカは川沿いに散歩に出かけた。

この英文では、主節が先に置かれている。主語（S）は Mika、述語動詞（V）は went である。along the river までで、「ミカは川沿いに散歩に出かけた」という内容を捉えられる。

続く although から副詞節が始まり、文末の ride まで続く。副詞節内の主語（S）は she で、Mika を指している。述語動詞（V）は was であり、still tired は「まだ疲れていた」という状態を表す。

長い電車の移動のあとで疲れていれば、散歩には出かけず休むかもしれない。しかし、実際にはミカは散歩に出かけた。although 節は、このような通常の予想とは異なる主節の内容を示すために使われている。

ここで although を because と同じように捉えて、「ミカは疲れていたので散歩に出かけた」と訳してはいけない。原文は疲労を散歩の理由として述べているのではなく、**疲れていたにもかかわらず散歩に出かけた**という対照を表している。

譲歩は、2 つの内容が論理的に矛盾するという意味ではない。疲れていることと散歩に出かけることは両立する。また、疲れていたことが散歩の直接の原因になったとも、その逆の因果関係が成り立つとも決められない。主節と副詞節の間にある、予想との対照を保つことが大切だ。

この 2 文では、if 節は主節の可能性を考える条件を示し、although 節は主節の内容と通常の予想との対照を示している。どちらも副詞節の範囲を確定してから主節へ戻り、**条件・可能性・対照のどれを原文が述べているのか**を保って訳す必要がある。

条件と譲歩の違い

if 節は、主節の内容を考えるための条件を示す。条件がすでに成立した事実とは限らず、主節に may などがあれば、その可能性も訳に反映する。

although 節は、ある状況から通常予想されることとは異なる主節の内容を示す。理由を表す because と混同せず、「〜だけれども」「〜にもかかわらず」などで対照を保つ。

条件も譲歩も、接続詞を含む副詞節全体を区切り、節内の主語・述語動詞を確認したうえで、主節の内容と結び付けて読む。

節と前置詞句を後続構造で見分ける

because と because of、although と despite は、それぞれ似た意味関係を表す。しかし、意味が似ているからといって、後ろに続く語のまとまりまで同じとは限らない。ここでは、接続詞の後ろに続く節と、前置詞の後ろに続く名詞句を、実際の英文から見分ける。

理由：because＋節と because of＋名詞句

語注：gym「体育館」、field「グラウンド」、instead of「〜の代わりに」、heavy「（雨が）激しい」

英文①：because＋節

(Because the rain was heavy)[M], 〈our soccer team〉[S] practiced[V] (in 〈the school gym〉)[M] (instead of (on 〈the field〉))[M] (after lunch)[M].

M “Because the rain was heavy” / 副詞節（理由） / 雨が激しかったことを、練習した場所と結び付ける。
S “our soccer team” / 主節 S
V “practiced” / 主節 V
M “in the school gym” / 練習した場所 → V “practiced”
M “instead of on the field” / 対比される場所 → V “practiced” / グラウンドではなく体育館で練習した。
M “after lunch” / 昼食後 → V “practiced”

(Because 〈the rain〉[S] was[V] heavy[C]), our soccer team practiced in the school gym instead of on the field after lunch.

S “the rain” / 副詞節 S
V “was” / 副詞節 V
C “heavy” / 雨の状態 / heavy は雨が激しい状態を表す。

意味：雨が激しかったので、私たちのサッカーチームは昼食後、グラウンドではなく学校の体育館で練習した。

because の直後には the rain was heavy が続く。この部分には、主語（S）の the rain と、述語動詞（V）の was がある。したがって、Because から heavy までが理由を表す副詞節である。

コンマの後の our soccer team から主節に戻る。主節の主語（S）は our soccer team、述語動詞（V）は practiced である。because 節は、「チームが昼食後に体育館で練習した」という主節の内容について、その理由を説明している。

解説

次の英文では、同じ理由を別の構造で表している。

語注：heavy rain「激しい雨」、gym「体育館」、field「グラウンド」、instead of「〜の代わりに」

英文②：because of＋名詞句

(Because of 〈the heavy rain〉) (M), 〈our soccer team〉 (S) practiced (V) (in 〈the school gym〉) (M)
(instead of (on 〈the field〉)) (M) (after lunch) (M).

M “Because of the heavy rain” / 前置詞句（理由） / because of の後ろは名詞句。副詞節ではない。
S “our soccer team” / 主節 S
V “practiced” / 主節 V
M “in the school gym” / 練習した場所 → V “practiced”
M “instead of on the field” / 対比される場所 → V “practiced” / グラウンドではなく体育館で練習した。
M “after lunch” / 昼食後 → V “practiced”

意味：激しい雨のため、私たちのサッカーチームは昼食後、グラウンドではなく学校の体育館で練習した。

because of の後ろにあるのは the heavy rain という名詞句である。中心となる名詞は rain で、heavy がその雨の様子を説明している。このまとまりの内部には、主語と定形の述語動詞の組がない。

したがって、Because of the heavy rain は副詞節ではなく、理由を表す前置詞句である。コンマの後に続く主節の骨格は英文①と同じであり、「激しい雨のため、グラウンドではなく学校の体育館で練習した」という関係も保たれている。

ここで because of を because と同じ接続詞として捉え、the heavy rain を節と呼ぶのは誤りだ。英文①では「雨が激しかった」という主語・述語動詞を含む内容を読み、英文②では「激しい雨」という名詞句を理由の情報として受け取る。どちらも理由を表すが、英語の構造は異なる。

譲歩：although＋節と despite＋名詞句

譲歩を表す場合にも、同じ違いが見られる。

語注：noisy「騒がしい」、quietly「静かに」

英文③：although＋節

(Although the room was noisy) (M), Ken (S) studied (V) quietly (M) (at 〈his desk〉) (M)
(for 〈two hours〉) (M) (before dinner) (M).

M “Although the room was noisy” / 副詞節（譲歩） / 部屋が騒がしい状況と、勉強した事実との対照を示す。
S “Ken” / 主節 S
V “studied” / 主節 V
M “quietly” / 静かに → V “studied”
M “at his desk” / 勉強した場所 → V “studied”
M “for two hours” / 2 時間 → V “studied”
M “before dinner” / 夕食前 → V “studied”

(Although 〈the room〉 was noisy), Ken studied quietly at his desk for two hours before dinner.
S V C

S “the room” / 副詞節 S
V “was” / 副詞節 V
C “noisy” / 部屋の状態 / noisy は部屋が騒がしい状態を表す。

意味：部屋は騒がしかったが、ケンは夕食前に自分の机で 2 時間静かに勉強した。

Although から noisy までが副詞節である。節内の主語（S）は the room、述語動詞（V）は was であり、noisy は部屋の状態を表している。

コンマの後の Ken から主節に戻る。主節の主語（S）は Ken、述語動詞（V）は studied である。quietly はケンが勉強する様子を表し、for two hours は勉強した時間の長さを示している。

部屋が騒がしければ勉強に集中しにくいと予想できるが、ケンは 2 時間勉強した。although 節は、その状況と主節の内容との対照を示している。「部屋が騒がしかったので勉強した」と理由に変えてはいけない。

同じ場面を despite を使って表すと、次のようになる。

語注：despite「〜にもかかわらず」、noise「騒音・物音」、quietly「静かに」

英文④：despite＋名詞句

(Despite 〈the noise 〔in 〈the room〉〕〉), Ken studied quietly (at 〈his desk〉)
M S V M M

(for 〈two hours〉) (before dinner).
M M

M “Despite the noise in the room” / 前置詞句（譲歩） / despite の後ろは名詞句。騒がしい状況との対照を示す。
S “Ken” / 主節 S
V “studied” / 主節 V
M “quietly” / 静かに → V “studied”
M “at his desk” / 勉強した場所 → V “studied”
M “for two hours” / 2 時間 → V “studied”
M “before dinner” / 夕食前 → V “studied”

意味：部屋の騒がしさにもかかわらず、ケンは夕食前に自分の机で 2 時間静かに勉強した。

Despite の後ろに続く the noise in the room は名詞句である。中心となる名詞は noise で、in the room がその場所を説明している。このまとまりには定形の述語動詞がないため、Despite the noise in the room 全体を譲歩の前置詞句として捉える。

主節は Ken studied quietly at his desk for two hours before dinner であり、英文③と変わらない。英文③では「部屋が騒がしかった」という節で状況を示し、英文④では「部屋の騒がしさ」という名詞句で状況を示している。どちらも、その状況にもかかわらずケンが勉強したという対照を保っている。

ただし、despite を使ったからといって、騒がしさが必ず勉強の妨げになったとまでは断定できない。原文が述べているのは、騒がしい状況と勉強した事実との対照である。

この 4 文で使った基本形では、**because・although の後ろには主語と定形の述語動詞を含む節が続き、because of・despite の後ろには名詞句が続く**。後続部分の構造を確認すれば、見た目の似た表現でも、どこまでを一まとまりとして読み、どこから主節へ戻るかを判断できる。

なお、これは今回扱った基本的な節と名詞句を区別するための見方であり、非定形節などを含むあらゆる構造を、定形動詞の有無だけで分類する規則ではない。

接続詞と前置詞は後ろの構造で区別する

because＋節と because of＋名詞句は、どちらも理由を表す。although＋節と despite＋名詞句は、どちらも譲歩を表す。

今回の基本形では、接続詞の後ろに主語・定形述語動詞を含む節があり、前置詞の後ろには名詞句がある。表現の意味だけで判断せず、後続部分の内部構造と終わりを確かめる。

節でも前置詞句でも、主節に戻った後は、理由や譲歩の意味関係を保って訳す。

©ミライコーチング

1

語注：struck「(時計が時を) 打った」(strike の過去形)、quietly「静かに」、newspaper「新聞」

英文

When the clock struck seven, my father was quietly reading a newspaper at the kitchen table.

a. 構造確認

指定された when 副詞節の全範囲と、主節との意味関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

例題 1 の解答・解説

a. 構造確認の解答

副詞節の全範囲は **When the clock struck seven** である。この副詞節は、主節の「父が静かに新聞を読んでいた」という出来事が起きていた時を示している。

(When the clock struck seven)[M], 〈my father〉[S] was[V] quietly[M] reading[V] 〈a newspaper〉[O] (at 〈the kitchen table〉)[M].

M “When the clock struck seven” / 副詞節（時） / 時計が 7 時を打った時点を示す。原文は、それが新聞を読み始めた原因だとは述べていない。
S “my father” / 主節 S
V “was” / 主節 V（過去進行形の be）
M “quietly” / 静かに → V “reading”
V “reading” / 主節 V（読む動作） / was とともに過去進行形を作る。
O “a newspaper” / 読んでいたもの
M “at the kitchen table” / 読んでいた場所 → V “reading”

(When 〈the clock〉[S] struck[V] seven[O]), my father was quietly reading a newspaper at the kitchen table.

S “the clock” / 副詞節 S
V “struck” / 副詞節 V
O “seven” / 時計が打った時刻

b. 全文和訳の解答

直訳 時計が 7 時を打ったとき、私の父は台所のテーブルで静かに新聞を読んでいるところだった。

満点の訳 時計が 7 時を告げたとき、父は台所のテーブルで静かに新聞を読んでいた。

読み方の解説

文頭の When は、時を表す副詞節の始まりを示している。まず、この接続詞から副詞節の内部を読み取る。

when 節の主語（S）は the clock、述語動詞（V）は struck である。struck seven は「7 時を打った」という意味であり、When the clock struck seven までが一つの副詞節となる。

seven の直後のコンマで副詞節が終わる。そこから主節に戻ると、my father が主語（S）、was reading が述語動詞（V）の中心である。quietly は読む動作の様子を表し、a newspaper は読む対象を示している。at the kitchen table は、その動作が行われていた場所を表す。

主節の was reading は過去進行形であり、過去のある時点で新聞を読む動作が進行していたことを示す。when 節が表す「時計が 7 時を打ったとき」に、父は新聞を読んでいる最中だったと分かる。

ここで注意したいのは、**時計が 7 時を打ったことが、父が新聞を読み始めた原因だとは述べられていない**という点である。「時計が 7 時を打ったので、父は新聞を読み始めた」と訳すと、when が示す時間の関係を理由に変え、さらに原文にない「読み始めた」という動作まで加えてしまう。

また、「父は静かに新聞を読んだ」とだけ訳すと、was reading が表す進行中の様子が弱くなる。この文では「読んでいた」と表すことで、7 時という時点と、そのとき進行していた動作との関係を自然に保てる。

したがって、時計が 7 時を打ったという時点を示したうえで、そのとき父が台所のテーブルで静かに新聞を読んでいたと訳すのが適切である。

©ミライコーチング

2

語注：garden「庭」、behind「〜の後ろに」、may「この文では可能性を表す『〜かもしれない』」

英文

If it is warm tomorrow morning, our family may eat breakfast together in the garden behind our house.

a. 構造確認

指定された if 副詞節の全範囲と、主節との意味関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

例題 2 の解答・解説

a. 構造確認の解答

副詞節の全範囲は **If it is warm tomorrow morning** である。この副詞節は、「明日の朝、暖かければ」という条件を表し、その条件のもとで、主節が「家族で一緒に朝食を食べるかもしれない」という可能性を述べている。

(If it is warm tomorrow morning) , 〈our family〉 may eat breakfast together
M S V V O M

(in 〈the garden 〔behind 〈our house〉 〕 〉) .
M

M “If it is warm tomorrow morning” / 副詞節（条件） / 明日の朝が暖かい場合を示す。暖かくなる変化や条件の成立は断定しない。
S “our family” / 主節 S
V “may” / 主節 V（可能性） / 朝食を食べる可能性を表す。実行は保証しない。
V “eat” / 主節 V（動作）
O “breakfast” / 食べるもの
M “together” / 一緒に → V “eat”
M “in the garden behind our house” / 朝食を食べる場所 → V “eat” / behind our house は garden の位置を説明する。

(If it is warm (tomorrow morning)) , our family may eat breakfast together in the
S V C M

garden behind our house.

S “it” / 副詞節 S / 天候を表す非人称の it。特定の物を指さない。
V “is” / 副詞節 V / 未来の条件を表す副詞節で現在形を用いている。
C “warm” / 暖かい状態
M “tomorrow morning” / 明日の朝 → V “is”

b. 全文和訳の解答

直訳 もし明日の朝暖かければ、私たちの家族は家の後ろの庭で一緒に朝食を食べるかもしれない。

満点の訳 明日の朝、暖かければ、私たち家族は裏庭で一緒に朝食をとるかもしれない。

読み方の解説 文頭の If は、条件を表す副詞節の始まりを示している。まず、if 節の内部にある主語と述語動詞を確認する。

if 節の主語（S）は it、述語動詞（V）は is である。ここでの it は天候を表す非人称の it であり、特定の物を指す「それ」ではない。warm は「暖かい」という状態を表し、tomorrow morning はその状態を考える時を示している。

If から tomorrow morning までが一つの副詞節であり、直後のコンマで終わる。ここまでを「明日の朝、暖かければ」という条件として捉え、その後の our family から主節に戻る。

主節の主語（S）は our family、述語動詞（V）は may eat である。eat breakfast は「朝食を食べる」、together は「一緒に」という意味である。in the garden behind our house は朝食を食べる場所を示し、behind our house は garden の位置を説明している。

ここで重要なのは、**may が主節の内容を可能性として表している**ことだ。この文は、暖かいという条件のもとで、家族が庭で朝食を食べる可能性を述べている。「暖かければ、必ず庭で朝食を食べる」と訳すと、may が表す可能性を確実な結果に変えてしまう。

また、「明日の朝は暖かいので、家族で庭で朝食を食べる」と読むのも誤りである。if 節は、明日の朝が暖かいという事実を報告しているのではない。明日の朝が暖かい場合を条件として示している。

この例では、if 節の is は現在形だが、tomorrow morning によって未来の状況を考えていることが分かる。未来を表す条件の副詞節では現在形を使うという既習事項が当てはまっている。現在形だから現在の事実を述べていると判断してはいけない。

さらに、この英文から「暖かくなければ庭では絶対に朝食を食べない」と結論付けることもできない。if 節は主節の可能性を考える条件を示しているが、それが唯一の必要条件であるとも、条件が満たされれば必ず実行されるとも述べていない。

したがって、まず「明日の朝、暖かければ」という条件を示し、その条件のもとで「家族が裏庭で一緒に朝食を食べるかもしれない」という可能性を続けて訳す。条件がまだ成立したとは限らないことと、主節の may が表す可能性を保つことが、この英文を正確に読むための判断の中心となる。

演習問題

1

語注：draw pictures「絵を描く」、market「市場」

英文

The children were drawing pictures at the kitchen table when their grandmother arrived home from the market.

a. 構造確認

when が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

2

語注：icy「凍結した」、on the way to 〜「〜へ向かう途中で」

英文

Because the streets were icy, our bus traveled slowly on the way to school that morning.

a. 構造確認

because が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

3

語注：brought「持ってきた・運んだ」（bring の過去形）、garage「車庫」、heavy rain「激しい雨」、fall「この文では雨が『降る』」

英文

The children brought their bicycles into the garage before dinner because heavy rain was falling outside.

a. 構造確認

because が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

4

語注：on time「時間どおりに」、art museum「美術館」、can「この文では条件が整うことで可能になる『〜できる』」

英文

If the train arrives on time tomorrow, we can visit the art museum before lunch.

a. 構造確認

if が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

5

語注：field「グラウンド」、grass「芝生」

英文

The students practiced soccer on the field although the grass was still wet from the morning rain.

a. 構造確認

although が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

6

語注：crowded「混雑した」、painting「絵画」、main hall「メインホール」

英文

Although the museum was crowded on Sunday afternoon, my sister enjoyed looking at the paintings in the main hall.

a. 構造確認

although が導く副詞節の全範囲と、主節との関係を一組で示せ。

b. 全文和訳

英文全体を自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **when their grandmother arrived home from the market** である。

この副詞節は、「子どもたちの祖母が市場から帰宅したとき」という時を表し、主節の「子どもたちが台所のテーブルで絵を描いていた」という動作が、その時点で進行中だったことを示している。

〈The children〉 were drawing pictures (at 〈the kitchen table〉)
S V O M

(when their grandmother arrived home from the market).
M

S “The children” / 主節 S
V “were drawing” / 主節 V（過去進行形） / 祖母が帰宅した時点で、絵を描く動作が進行していた。
O “pictures” / 描いていたもの
M “at the kitchen table” / 絵を描いていた場所 → V “were drawing”
M “when their grandmother arrived home from the market” / 副詞節（時） / 祖母が市場から帰宅した時点を示す。帰宅を絵を描く原因とはしない。

The children were drawing pictures at the kitchen table (when 〈their grandmother〉)
S

arrived home (from 〈the market〉)).
V M M

S “their grandmother” / 副詞節 S / their は主節の The children を受ける。
V “arrived” / 副詞節 V
M “home” / 帰宅先 → V “arrived”
M “from the market” / 帰宅前にいた場所 → V “arrived”

b. 全文和訳の解答

直訳 子どもたちは、彼らの祖母が市場から家に帰ってきたとき、台所のテーブルで絵を描いているところだった。

満点の訳 子どもたちの祖母が市場から帰ってきたとき、子どもたちは台所のテーブルで絵を描いていた。

読み方の解説

この英文では、文頭から The children were drawing pictures at the kitchen table と主節が続く。主語（S）は The children、述語動詞（V）は were drawing である。were drawing は過去進行形であり、過去のある時点で絵を描く動作が進行していたことを表す。

pictures は描いていた対象であり、at the kitchen table は絵を描いていた場所を示している。したがって、主節からは「子どもたちは台所のテーブルで絵を描いていた」という内容が読み取れる。

続く when は、時を表す副詞節の始まりである。when 節の主語（S）は their grandmother、述語動詞（V）は arrived である。their は主節の The children を受けており、their grandmother は「子どもたちの祖母」を指す。

when 節は文末の from the market まで続く。arrived home は「帰宅した」、from the market は「市場から」という意味である。副詞節の終端を確認したら、主節の were drawing に戻り、祖母が帰宅した時点で子どもたちが何をしていたかを捉える。

ここで、「祖母が帰宅したので、子どもたちは絵を描き始めた」と読むのは誤りである。when が示しているのは時の関係であり、祖母の帰宅が絵を描く原因になったとは述べられていない。また、were drawing は進行中の動作を表すため、「描き始めた」という意味も含まない。

和訳では、英文の主節と副詞節の順序を入れ替え、「祖母が帰ってきたとき、子どもたちは絵を描いていた」と表すと自然になる。これは英語の語順を変えても、祖母の帰宅という時点と、子どもたちの動作が進行していたという時間関係を保てるためである。

2

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **Because the streets were icy** である。

この副詞節は、「道路が凍結していたので」という理由を表し、主節の「私たちのバスがその朝、学校へ向かう途中でゆっくり走った」という内容が成り立つ理由を説明している。

(Because the streets were icy) [M], 〈our bus〉 [S] traveled [V] slowly [M]

(on 〈the way 〔to school〕〉) [M] (that morning) [M].

M “Because the streets were icy” / 副詞節（理由） / 道路の凍結が、バスがゆっくり走った理由を示す。
S “our bus” / 主節 S / our から実際の乗車までは断定しない。
V “traveled” / 主節 V
M “slowly” / ゆっくり → V “traveled”
M “on the way to school” / 学校へ向かう途中 → V “traveled”
M “that morning” / その朝 → V “traveled”

(Because 〈the streets〉 [S] were [V] icy) [C], our bus traveled slowly on the way to school that morning.

S “the streets” / 副詞節 S
V “were” / 副詞節 V
C “icy” / 道路の状態 / icy は道路が凍結していた状態を表す。

b. 全文和訳の解答

直訳 道路が凍結していたので、私たちのバスはその朝、学校へ向かう途中でゆっくりと走った。

満点の訳 その朝は道路が凍っていたため、私たちのバスは学校へ向かう途中、ゆっくり走った。

読み方の解説

文頭の Because は、理由を表す副詞節の始まりである。まず、because の後ろに続く主語と述語動詞を確認する。

副詞節内の主語（S）は the streets、述語動詞（V）は were である。icy は道路の状態を表す形容詞で、「凍結した」という意味を持つ。したがって、the streets were icy は「道路が凍結していた」という内容である。

副詞節は Because から icy まで続き、その直後のコンマで終わる。コンマの後にある our bus から主節へ戻る。

主節の主語（S）は our bus、述語動詞（V）は traveled である。slowly は traveled を説明し、バスが「ゆっくりと」進んだ様子を表している。on the way to school は「学校へ向かう途中で」、that morning は「その朝」という意味であり、バスの移動について場所に関わる状況と時を補っている。

主節の内容が分かったら、because 節を理由として結び付ける。道路が凍結していたことが、バスがゆっくり走った理由として示されているため、「道路が凍結していたので、バスはゆっくり走った」という関係になる。

ここで、「バスがゆっくり走ったので、道路が凍結していた」と訳すと、理由と説明される内容が逆になってしまう。because が導いているのは the streets were icy であり、理由を表すのは道路の状態である。主節の traveled slowly は、その理由によって説明される動作だ。

また、slowly を落として「バスは学校へ向かった」とだけ訳すと、なぜ道路の凍結が理由として示されているのかが読み取りにくくなる。原文は単にバスが移動したことではなく、ゆっくり走ったことを述べているため、その様子を訳に残す必要がある。

自然な日本語に整える際は、that morning を文頭に移し、「その朝は道路が凍っていたため」と表してもよい。道路が凍結していたという過去の状態、バスが学校へ向かっていた状況、ゆっくり走ったという動作の様子、そして理由の関係を保てば、原文の意味を正確に伝えられる。

©ミライコーチング

3

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **because heavy rain was falling outside** である。

この副詞節は、「外で激しい雨が降っていたので」という理由を表し、主節の「子どもたちが夕食前に自分たちの自転車を車庫の中へ運び入れた」という行動の理由を説明している。

〈The children〉 brought 〈their bicycles〉 (into 〈the garage〉) (before dinner)
S V O M M

(because heavy rain was falling outside).
M

S “The children” / 主節 S
V “brought” / 主節 V
O “their bicycles” / 運んだもの / their は子どもたちを指す。
M “into the garage” / 移動先 → V “brought” / into は車庫の中への移動を表す。
M “before dinner” / 夕食前 → V “brought” / 自転車を運んだ時を示す。雨の時を直接限定しない。
M “because heavy rain was falling outside” / 副詞節（理由） / 外で激しい雨が降っていたことが、自転車を運び入れた理由。

The children brought their bicycles into the garage before dinner (because 〈heavy rain〉
S

was falling outside).
V M

S “heavy rain” / 副詞節 S
V “was falling” / 副詞節 V（過去進行形） / 雨が降っていた状態を表し、降り始めた瞬間は示さない。
M “outside” / 外で → V “was falling”

b. 全文和訳の解答

直訳 子どもたちは、外で激しい雨が降っていたので、夕食前に自分たちの自転車を車庫の中へ運んだ。

満点の訳 外で激しい雨が降っていたため、子どもたちは夕食前に自転車を車庫に運び入れた。

読み方の解説

この英文では、主節が先に置かれ、その後ろに because が導く副詞節が続いている。まず、because を見つけ、そこから文末までの構造を確認する。

because 節の主語（S）は heavy rain、述語動詞（V）は was falling である。heavy rain は「激しい雨」を表し、was falling は過去進行形で、そのとき雨が降っていたことを示している。outside は「外で」という場所の情報を加えている。

副詞節は because から文末の outside まで続く。したがって、because heavy rain was falling outside 全体を理由のまとまりとして捉える。

次に、because の直前に戻り、主節の骨格を確認する。主節の主語（S）は The children、述語動詞（V）は brought である。brought は bring の過去形で、「持ってきた」「運んだ」という意味を表す。

their bicycles は「子どもたち自身の自転車」を指し、into the garage は自転車を「車庫の中へ」移動させたことを示している。into は移動の方向を含むため、単に「車庫にあった」と訳してはいけない。

before dinner は「夕食前に」という意味で、主節の brought に結び付く。つまり、夕食前だったのは子どもたちが自転車を運んだ時である。この表現を because 節の was falling に直接結び付け、雨が降っていた時間だけを限定する読み方はしない。

ここまで確認すると、主節が述べるのは「子どもたちが夕食前に自転車を車庫の中へ運び入れた」という行動であり、because 節は、その行動の理由として「外で激しい雨が降っていた」という状況を示していると分かる。

ここで、「子どもたちが自転車を車庫に運んだので、激しい雨が降った」と訳すのは誤りである。because が導くのは heavy rain was falling outside であり、理由を表すのは雨が降っていたという状況だ。主節と副詞節の関係を逆にしてはいけない。

また、「雨が降り始めたので」と訳すと、原文にない動作の開始を加えてしまう。was falling は、そのとき雨が降っていたことを示す過去進行形であり、雨が降り始めた瞬間を表しているわけではない。

自然な日本語では、because 節の理由を先に置いて「外で激しい雨が降っていたため」とし、その後に主節の行動を続けると読みやすくなる。雨が降っていたという状況、夕食前という行動の時、自転車を車庫の中へ移動させたことを、それぞれ原文どおりに保つことが大切だ。

4

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **If the train arrives on time tomorrow** である。

この副詞節は、「明日、電車が時間どおりに到着すれば」という条件を表し、その条件のもとで、主節が「私たちは昼食前にその美術館を訪れることができる」という可能性を述べている。

(If the train arrives on time tomorrow) [M], we [S] can [V] visit [V] 〈the art museum〉 [O] (before lunch) [M].

M “If the train arrives on time tomorrow” / 副詞節（条件） / 明日、電車が時間どおりに到着する場合を示す。到着の確定は主張しない。
S “we” / 主節 S
V “can” / 主節 V（可能） / 条件が整えば訪問できる。実行や条件の唯一性は保証しない。
V “visit” / 主節 V（動作）
O “the art museum” / 訪れる場所
M “before lunch” / 昼食前 → V “visit” / 昼食より前の時を示す。

(If 〈the train〉 [S] arrives [V] (on time) [M] tomorrow) [M], we can visit the art museum before lunch.

S “the train” / 副詞節 S
V “arrives” / 副詞節 V / 未来の条件を表す副詞節で現在形を用いている。
M “on time” / 時間どおりに → V “arrives”
M “tomorrow” / 明日 → V “arrives”

b. 全文和訳の解答

直訳 もし明日その電車が時間どおりに到着すれば、私たちは昼食前にその美術館を訪れることができる。

満点の訳 明日、電車が予定どおりに到着すれば、私たちは昼食前にその美術館へ行くことができる。

読み方の解説

文頭の If は、条件を表す副詞節の始まりである。まず、if 節の内部にある主語と述語動詞を確認する。

副詞節内の主語（S）は the train、述語動詞（V）は arrives である。on time は「時間どおりに」という意味で、電車が到着する時刻についての情報を加えている。tomorrow は「明日」を表す。

副詞節は If から tomorrow まで続き、その直後のコンマで終わる。したがって、If the train arrives on time tomorrow を「明日、電車が時間どおりに到着すれば」という条件のまとまりとして捉える。

コンマの後の we から主節に戻る。主節の主語（S）は we、述語動詞（V）は can visit である。visit the art museum は「その美術館を訪れる」という意味であり、before lunch は「昼食前に」という時を表している。

ここで重要なのは、主節の can が表す意味である。この文の can visit は、条件が整えば「訪れることができる」という可能性を表している。「訪れる予定だ」「必ず訪れる」といった実行の確約ではない。

例えば、「明日、電車が時間どおりに到着するので、私たちは美術館を訪れる」と訳すと、if 節が示す条件を、すでに確定した事実のように扱ってしまう。しかし、原文は電車が時間どおりに到着することを確定した事実として主張せず、条件として示している。

また、「電車が時間どおりに到着すれば、私たちは必ず美術館を訪れる」と訳すのも適切ではない。can visit が示すのは訪問が可能になることであり、実際に訪問することまで保証していない。

逆に、「電車が時間どおりに到着しなければ、美術館には絶対に行けない」と判断することもできない。この if 節は、時間どおりに到着する場合の可能性を述べているだけであり、それが訪問を可能にする唯一の条件だとは示していない。

なお、arrives は現在形だが、tomorrow によって未来の出来事を表していることが分かる。未来を表す条件の副詞節では現在形を使うという既習事項が、この英文にも当てはまっている。現在形だからといって、電車がすでに到着したという意味にはならない。

before lunch の範囲にも注意が必要だ。before は「〜より前に」を表すため、この文では美術館を訪れることが可能な時が昼食より前であると分かる。「昼食のときに美術館を訪れる」と訳すと、原文の時間関係が変わってしまう。

したがって、「明日、電車が予定どおりに到着すれば」という条件を先に示し、その条件のもとで「昼食前に美術館へ行くことができる」と続ければ、自然な日本語になる。

条件がまだ成立したとは限らないこと、can が示す可能性、before lunch が示す時間の範囲を保つことが、この英文を正確に訳すための重要な判断となる。

5

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **although the grass was still wet from the morning rain** である。

この副詞節は、「朝の雨で芝生がまだ濡れていたにもかかわらず」という譲歩を表し、主節の「生徒たちがグラウンドでサッカーの練習をした」という内容と、通常の予想との対照を示している。

〈The students〉 practiced soccer (on 〈the field〉)
S V O M

(although the grass was still wet from the morning rain).
M

S “The students” / 主節 S
V “practiced” / 主節 V
O “soccer” / 練習したスポーツ
M “on the field” / 練習した場所 → V “practiced”
M “although the grass was still wet from the morning rain” / 副詞節（譲歩） / 芝生がまだ濡れていた状況と、練習した事実との対照を示す。

The students practiced soccer on the field (although 〈the grass〉 was 〔still wet
S V M C

(from 〈the morning rain〉)〕).
M

S “the grass” / 副詞節 S
V “was” / 副詞節 V
M “still” / まだ → C “wet” / 濡れた状態が続いていたことを示す。
C “wet” / 芝生の状態
M “from the morning rain” / 濡れていた原因 → C “wet” / 朝の雨は wet の原因。原文は、雨が主節の練習をした理由だとは述べていない。

b. 全文和訳の解答 直訳 生徒たちは、朝の雨で芝生がまだ濡れていたけれども、グラウンドでサッカーの練習をした。

満点の訳 朝の雨で芝生はまだ濡れていたが、生徒たちはグラウンドでサッカーの練習をした。

読み方の解説

この英文では、主節が先に置かれ、その後ろに although が導く副詞節が続いている。まず、although を見つけ、そこから文末までを一まとまりとして確認する。

副詞節内の主語（S）は the grass、述語動詞（V）は was である。still wet は「まだ濡れていた」という状態を表し、still はその状態が続いていることを示している。

from the morning rain は「朝の雨で」という意味で、芝生が濡れていた原因を説明している。したがって、although 節の内部では「朝の雨によって芝生が濡れた状態のままだった」という内容が述べられている。

副詞節は although から文末の rain まで続く。although the grass was still wet from the morning rain 全体を譲歩のまとまりとして捉えたら、その直前に戻って主節の骨格を確認する。

主節の主語（S）は The students、述語動詞（V）は practiced である。practiced soccer は「サッカーの練習をした」、on the field は「グラウンドで」という意味である。

ここまで読むと、主節が述べるのは「生徒たちがグラウンドでサッカーの練習をした」という過去の出来事であり、although 節は、その出来事と対照をなす状況を示していると分かる。

芝生が雨で濡れていれば、サッカーの練習を控えることも考えられる。しかし、この英文では実際に生徒たちは練習をした。このように、**ある状況から通常予想されることとは異なる内容を主節で述べる**のが、この文の although の働きである。

ここで、「朝の雨で芝生が濡れていたので、生徒たちはサッカーの練習をした」と訳すのは誤りである。although は because と異なり、芝生が濡れていたことを練習した理由として示しているわけではない。

注意したいのは、from the morning rain が表す原因と、although 節全体が表す譲歩を区別することだ。朝の雨は芝生が濡れていた原因だが、それをそのまま「生徒たちが練習した理由」にしてはいけない。

また、still を落として「芝生が濡れていた」とだけ訳すと、濡れた状態がその時点まで続いていたという情報が弱くなる。自然な日本語でも「まだ濡れていた」と表すことで、原文の状態を正確に伝えられる。

和訳では、英文の順序を入れ替えて「朝の雨で芝生はまだ濡れていたが」と先に示し、その後に「生徒たちはグラウンドでサッカーの練習をした」と続けると自然になる。

この文では、朝の雨と芝生の状態の原因関係、そして濡れた芝生の状態と練習した事実との譲歩関係を区別することが重要である。2 つの関係を混同せず、原文の still や場所の情報も保持して訳す。

6

a. 構造確認の解答

指定された副詞節の全範囲は **Although the museum was crowded on Sunday afternoon** である。

この副詞節は、「日曜日の午後、博物館が混雑していたにもかかわらず」という譲歩を表し、主節の「私の姉がメインホールで絵画を見ることを楽しんだ」という内容と、通常の予想との対照を示している。

(Although the museum was crowded on Sunday afternoon) [M], 〈my sister〉 [S] enjoyed [V]

〈looking at the paintings in the main hall〉 [O].

M “Although the museum was crowded on Sunday afternoon” / 副詞節（譲歩） / 博物館の混雑と、絵画鑑賞を楽しんだ事実との対照。
S “my sister” / 主節 S / sister は姉・妹のどちらかを原文だけでは確定できない。
V “enjoyed” / 主節 V / enjoyed が主節の定形述語動詞。
O “looking at the paintings in the main hall” / 楽しんだ内容 / looking at 以下は動名詞のまとまり。enjoyed との並列述語ではない。

(Although 〈the museum〉 [S] was [V] crowded [C] (on 〈Sunday afternoon〉) [M], my sister enjoyed looking at the paintings in the main hall.

S “the museum” / 副詞節 S
V “was” / 副詞節 V
C “crowded” / 博物館の状態
M “on Sunday afternoon” / 日曜日の午後 → V “was” / 博物館が混雑していた時を示す。

Although the museum was crowded on Sunday afternoon, my sister enjoyed 〈looking [V]

(at 〈the paintings〉) [見る対象を示す前置詞句] (in 〈the main hall〉) [M]〉.

V “looking” / 動名詞内の動作 / looking は非定形。主節の定形述語動詞は enjoyed。
phrase “at the paintings” / 見る対象を示す前置詞句 / look at で絵画を見る対象を表す。
M “in the main hall” / 鑑賞した場所 → V “looking” / ここでは見る行為の場所と読む。絵画の所在を示す読みも可能。

b. 全文和訳の解答

直訳 日曜日の午後、博物館は混雑していたけれども、私の姉はメインホールで絵画を見ることを楽しんだ。

満点の訳 日曜の午後、博物館は混雑していたが、私の姉はメインホールで絵画鑑賞を楽しんだ。

読み方の解説

文頭の Although は、譲歩を表す副詞節の始まりである。まず、although 節の内部にある主語と述語動詞を確認する。

副詞節内の主語（S）は the museum、述語動詞（V）は was である。crowded は「混雑した」という状態を表す形容詞であり、the museum was crowded で「博物館は混雑していた」という意味になる。

on Sunday afternoon は「日曜日の午後に」という時を表す表現である。ここでは、博物館が混雑していた時を示している。

副詞節は Although から afternoon まで続き、直後のコンマで終わる。したがって、Although the museum was crowded on Sunday afternoon 全体を一つの副詞節として捉える。

コンマの後の my sister から主節に戻る。主節の主語（S）は my sister、述語動詞（V）は enjoyed である。

ここで注意したいのが、enjoyed looking at の構造だ。enjoyed は主節の述語動詞であり、looking at the paintings は enjoyed の目的語となる動名詞のまとまりである。「絵画を見ることを楽しんだ」という関係で読む。

enjoyed と looking を 2 つの並列した定形の述語動詞として扱ってはいけない。looking は動名詞であり、enjoyed の目的語の内部にある。したがって、主節は「姉が楽しんだ」という骨格を持ち、その楽しんだ内容が「絵画を見ること」だと分かる。

in the main hall は「メインホールで」という意味である。この解答では、絵画を見る行為が行われた場所を示すものとして読み、「メインホールで絵画を見ることを楽しんだ」と訳している。

ただし、in the main hall を直前の the paintings に結び付け、「メインホールにある絵画」と読むことも可能である。原文だけではこの 2 つの結び付き方を厳密に一つへ限定できないため、どちらも文意に合う解釈として認められる。

また、my sister は「私の姉」または「私の妹」を表す。英語の sister だけでは姉か妹かは決まらない。ここでは「姉」を採用しているが、「妹」と訳してもよい。

主節の内容を確認したら、although 節との意味関係を考える。博物館が混雑していれば、落ち着いて絵画を見ることが難しいかもしれない。しかし、この英文では、そうした状況にもかかわらず、姉が絵画を見ることを楽しんだと述べている。

ここで、「博物館が混雑していたので、姉は絵画鑑賞を楽しんだ」と訳すのは誤りである。although 節は、混雑していたことを楽しんだ理由として説明しているわけではない。

また、「博物館が混雑していたため、姉は絵画を楽しめなかった」と読むと、主節の内容そのものを逆にしてしまう。原文の enjoyed は、実際に楽しんだことを表している。混雑していたという状況から、楽しめなかったという結果を推測してはいけない。

譲歩は、2 つの内容が論理的に矛盾するという意味でもない。博物館が混雑していることと、そこで絵画鑑賞を楽しむことは両立する。although が示しているのは、通常の予想との対照である。

和訳では、「博物館は混雑していたが」と状況を示した後に、「姉はメインホールで絵画鑑賞を楽しんだ」と続けると自然になる。

この英文では、although 節が示す混雑した状況と、主節の enjoyed が示す肯定的な内容を正しく結び付けることが重要である。さらに、looking at の動名詞としての働き、in the main hall の結び付き方、sister の訳の幅を確認すれば、原文にない意味を付け加えずに自然な日本語へ整えられる。